

## 第6章 述部の構成要素

第5章5, 6.2で述べたように、スンバワ語の述部は以下の構成を持つ。(述部に必須の成分は主要部だけである。)

[否定詞] [アスペクト辞、モダル辞][人称詞・辞] 主要部 [人称詞・辞] [限定詞] [叙法辞]

この節では、上記の述部の構成要素のうち、アスペクト辞、モダル辞、否定詞の機能を扱う。(否定詞は述部以外に副詞成分内にも現れる。ここではその場合も含めて扱う。) 構成は以下のとおりである。

## 1 アスペクト辞、モダル辞

1.1 *ka* 完了

1.2 *ya* 先行する状況との結びつき

1.3 *ma* 願望

1.4 *na* ある状況が成立しないことへの願望

## 2 否定詞

2.1 否定詞 *nó*

2.2 否定詞 *siong'*

2.3 「否定」についてのまとめ

## 1 アスペクト辞、モダル辞

ここで扱うアスペクト辞には、*ka* (基準となる時点より前に完了した状況) がある。

また、モダル辞には次の三つがある。

*ya* 先行する状況との結びつき

*ma* 願望

*na* ある状況が成立しないことへの願望

四つの要素のうち、*ka*, *ya*, *ma*は述部の他の構成要素と音声的単位を形成するが、*na*は、独立した強勢を持つ。以下の部分では、個々の要素の機能を述べる。

1.1 *ka* 完了

*ka*は述部の主要部の動詞の表す状況が基準点以前に「完了」したことを示す。

第5章6.2.3で触れたように、この言語ではいわゆる絶対テンスが述部内に示されることはない。完了の基準点は通常は発話時点であるが、副詞成分などによって別に指定されている場合もある。この点については1.1.2で述べる。

## 1.1.1 主要部のアスペクトに関する特性による意味の違い

*ka*を含む述部の意味は、述部の主要部の動詞のアスペクト的な特性によって異なる。以下

の部分では、動詞をアスペクトに関する特性によって分類し、例を示す。

## (i) 述部の主要部が静的な状況を表す場合

アスペクト辞 $ka=$ が現れていない場合、述部は基準となる時点において成立している状況を表す。

- (1) *gera' nya.*  
beautiful 3 「彼女は美しい。」
- (2) *batian' nya.*  
pregnant 3 「彼女は妊娠している。」

一方、 $ka$ を含む述部は、基準となる時点以前に成立していて、基準となる時点においては成立していない状況を表す。

- (3) *ka=gera' nya.*  
PERF=beautiful 3 「彼女はかつて美しかった。(今は美しくない。)」
- (4) *ka=batian' nya.*  
PERF=pregnant 3  
「彼女は妊娠していた。(今は妊娠していない。)」

## (ii) 述部の主要部が動的で持続時間がある状況を表す場合

アスペクト辞 $ka$ が現れない場合、述部は動詞の表す状況のアスペクトに関しては何も言及しない。また、基準点からの相対的位置についても何も言及しない。

(5)(6)のような文は、進行中の状況も、将来実現が予測される状況も、既に終了した状況も表しうる。

- (5) *mangan nya.*  
eat 3  
「彼は食事をしている。」「彼は食事をする(だろう)。」「彼は食事をした。」
- (6) *ngibar pio=nan.*  
fly bird=that  
「その鳥は飛んでいる。」「その鳥は飛ぶ(だろう)。」「その鳥は飛んだ。」

一方、 $ka$ を含む述部は、基準となる時点以前に終了している状況を表す。

- (7) *ka=mangan nya.*  
PERF=eat 3 「彼は食事をした(し終えた)。)」
- (8) *ka=ngibar pio=nan.*  
PERF=fly bird=that 「その鳥は飛んだ(今は飛んでいない)。)」

持続時間がある動作の中には、*buya*「探してみつける」など、明確な終着点を持つものが

ある。この種の動詞に*ka*が付いた形は、基準となる時点以前に動作が終着点に達していることを示す。

- (9) *ka=ku=buya*                      *pipés=nan.*  
 PERF=1SG.LOW.AFFIX=look.for    money=that  
 「私はそのお金を見つけた。」

*ka*が現れていない場合、述部は終着点にむけての動作を表し、終着点への到達は表さない。また、基準点からの相対的な位置については何も言及せず、進行中の状況、将来実現が予測される状況、終着点に到達しないまま既に終了した状況のいずれをも表す。

- (10) *ku=buya*                              *pipés=nan.*  
 1SG.LOW.AFFIX=look.for    money=that  
 「私はそのお金を探している。」  
 「私はそのお金を探す(だろう)。」  
 「私はそのお金を探した。」

(iii) 述部の主要部が瞬間的な状態の変化とその結果としての状態の両方を表す場合。(例：*maté*「死ぬ」<sub>ト</sub>、*polak*「折れる」)

アスペクト辞*ka=*が現れない場合、述部は(i)基準点において変化の結果としての状態が成立していること、または(ii)将来状態の変化の実現が予測されること、のいずれかを表す。

- (11) *maté*    *tau=nan.*  
 die    person=that  
 「その人は死んでいる。」「その人は死ぬだろう。」

一方、*ka*を含む述部は、(i) 状態の変化が基準点より前に成立したことを示す場合と(ii) 変化の結果としての状態が基準点より前に成立したが、現在は成立していないことを示す場合の両方がある。

- (12) *ka=maté*                      *tau=nan*  
 PERF=die                      person=that  
 「その人は死んだ。」  
 「その人は死んでいた(が今は生き返った。)」

(i)-(iii)いずれのタイプの動詞と共起する場合も、*ka*を含む述部は、主要部の表す状況全体が、基準となる時点(通常は発話時点)より前に位置づけられていることを表す。

このような*ka*の意味は、終了を表す副詞*suda*「～し終える」と比較することによってより明確になる。*suda*が発話の直前まで進行していた状況の終了を表しうるのに対して、*ka*はそのような状況は表さない。たとえば、発話時点の直前まで降っていた雨が止んだという状況を表す場合は通常は*suda*が用いられ、*ka*を含む述部は用いられない。

- (13) *suda*    *ujan.*  
 finish    rain                      「雨が降り止んだ。」

(14) *ka=ujan.*

PERF=rain 「雨が降った。」

このことから、*ka*を含む述部は、状況の終了それ自体を示すのではなく、動詞の表す状況全体が基準となる時点より前に位置づけられていることを示すのだということがわかる。以下の部分ではこのような*ka*のアスペクトにかかわる特徴を「完了」と呼ぶことにする<sup>1</sup>。

### 1.1.2 基準となる時点

1.1.1で述べたように、*ka*は、基準点において完了している状況を示す。基準点は通常は発話時点であるが、副詞成分などによって指定されている場合もある。

発話時点以外に「基準となる時点」が指定されていると考えられるのは以下のような場合である。

[1] *ka*を含む部分がときをあらわす副詞成分と共に起する場合。(この場合、副詞成分の表すときが基準点となる。)

[2] *ka*を含む部分が複文中に現れる場合。(この場合、複文または重文中の*ka*を含まない方の文が表す状況の成立時点が基準点となる。)

それぞれの場合について例を挙げて述べる。

#### [1] 副詞成分によって基準となる時点が指定されている場合

(15)はときの副詞から成る副詞成分が「基準となる時点」を指定している例である。ここでは、ときの副詞が表す時点(昨日)において、彼が来るという状況がもう成立していることを表す。

(15) *sapèrap ka=datang nya.*  
yesterday PERF=come 3  
「昨日、彼は(既に)来ていた。」

[2] *ka*を含む部分が複文を構成する片方の文に現れ、もう一方の文が基準となる時点指定している場合。

*ka*を伴う述部を持つ文が複文の一方に現れる場合は、もう一方の表す状況が成立する時点が基準点として、それ以前に位置づけられる状況を示す。

1 *ka*が起動を表す叙法辞*mo*と共に起す場合は、動詞の表す状況全体が完了したことではなく、動詞の表す状況の起動が基準点以前に起こったことを示す。(a)を(3)と(b)を(8)と比較されたい。

(a) *ka mo gera' nya.*  
PERF MM beautiful 3  
「彼女は美しくなった。」

(b) *ka mo ngibar pio=nan.*  
PERF MM fly bird=that  
「その鳥は飛び立った。」

このような文の意味は、*ka*の完了の意味と、叙法辞*mo*の起動の意味との組み合わせとして考えることができる。この点については、第7章3.1.1で詳しく述べる。

(16)では、名詞節内に*ka*が現れている。この場合、*ka*を含む述部はその名詞句を含む主文全体が成立する時点より前に位置づけられる状況を表す。(このような名詞節については第8章3で扱う。)

(16) *na ba' tu=setama' mo legé=ta,*  
you see then 1PL.AFFIX=put.into MM rice=this

*na, legé ka=tu=kukés=ta é.*  
you see rice PERF=1PL.AFFIX=steam=this you see

「(鍋に砂糖を入れて、砂糖が溶けたら、)そしたら、(鍋に)米を入れる。あのね、(前に)蒸しておいた米をだよ。」 [wajik 014]

(17)(18)では接続詞を含む従属文の述部に*ka*が現れている。(この種の複文については第8章6で扱う。)この場合、*ka*は主文が成立する時点を基準とし、それ以前に位置づけられる状況を表す。

(17) *tapi setela ka mo ngibar adè enam,*  
but after PERF MM fly NOM six

*batada kan adè=ta nó to' lók ngibar nya.*  
remain isn't.it? NOM=this NEG know way fly 3

「六人が飛んで行ったあと、これ(この娘)は取り残されたでしょう?彼女は飛ぶことができなかった。」 [LK 053]

(18)<sup>2</sup> *beru' ka=m=tu=kukés né,*  
just.after PERF=MM=1PL.AFFIX=steam you know

*ba=t=teding sugan, na.*  
INTERJ=1PL.AFFIX=put on a stove pan you see

「(米を水につける。それから、米を蒸す。)米を蒸したらすぐ、フライパンを火にかける。」

*ka*の機能についてまとめると以下のことが言える。*ka*は、述部の主要部の動詞が表す状況が基準点以前に完了していることを表示する機能を持つ。

2 第4章1.3で述べたように、強勢を持たない小辞は会話では母音を伴わない形で現れる場合がある。この文の二つ目の要素中の*m*は叙法辞*mo*「起動、妥当」の母音が落ちた形、四つ目の要素中の*t*は1人称複数人称辞*tu*の母音が落ちた形である。

1.2 *ya* 先行する状況との結びつき

*ya*は述部の表す状況が、先行する状況と結びついていることを示す。

*ya*は動的な状況を表す動詞を主要部とする述部にのみ現れる。動詞以外を主要部とする述部や静的な状況を表す動詞を主要部とする述部には現れない。

- (19) *ya=datang kóta nya*  
 CONS=come to.here 3  
 「彼は来ることになった。」または「彼は来ることになる。」

- (20) \**ya=gera' nya.*  
 CONS=beautiful 3

*ya* の表す意味

この項(1.2)の冒頭で述べたように、*ya*は、述部の表す状況の成立が、それと(時間的に)先行する状況と何らかの結びつきを持っていることを示す。

先行する状況は、言語的に明示されている場合とそうでない場合がある。(21)-(24)は、先行する状況が明示されている例である。

(21)においては先行する状況を表す文に接続詞*beru'*「～の直後に」が現れており、この文と後に続く*ya*を含む文は複文を形成している。

- (21) *beru' entèk tau setau=ta né,*  
 just after climb person one person=this you.know

*ya=katelar bangsa=ta.*  
 CONS=sink boat=this

「人が一人乗るやいなや、(その重さで)船は傾いた。」[SS 072]

一方(22)-(24)では先行する状況を表す文と*ya*を含む文は連続して発話されているが、先行する文には接続詞は現れていない。また、先行する文と*ya*を含む文はある程度のポーズを持って発話される。

- (22) *lés anak=selaki. ya=sasingén Lalu=Mancauni.*  
 come out child=male. CONS=name TITLE=Mancauni  
 「男の子が生まれ、マンチャウニと名付けられた。」[LK074]

- (23) *dadi ta lók léng bléng datu=ta,*  
 then this way word say headman=this

‘*tó*’ *ku=prènta nènè laló sama srang,*  
 now 1SG.LOW.AFFIX=command 2-3PL go together fight

*srang tentara portugis=ta pang' tana=Samawa=ta.*  
 fight army Portuguese=this at land=Sumbawa=this

*ya=laló mo srang dèta.*

CONS=go MM fight this

「司令官は次のように言った。『自分はおまえたちに、スンバワ港で団結してポルトガル軍と戦うよう命令する。』(それを受けて)彼(命令された者)は戦いに行った。」 [DPG014]

(24) *ao' aku=ta ka mo ku=tumpan=lamong' ku=ta.*

yes 1SG.LOW=this PERF MM 1SG.LOW.AFFIX=get=clothes 1SG.LOW.AFFIX=this

*ta mo ya=ku=mólé' léng.*

this disc CONS=1SG.LOW.AFFIX =return words

「私は服を取りかえました。これから、(その服を翼にして天界に)帰ることにします。」 [LK132]

*ya*を含む文の示す状況と先行する状況の関係は、(21)(23)(24)のように明確な因果関係である場合もあれば、(22)のように単に一つの関与者をめぐる時間的に連続した状況である場合もある。いずれの場合にも先行する状況との何らかの関連を示すことが*ya*の機能であると考えられる<sup>3</sup>。

先行する状況は言語的に明示されていない場合もある。(25)および(26)は、そのような例である。このような場合、「先行する状況」は、発話時点において成立している何らかの状況であると解釈される。

(25)は、話者が聞き手の求めに応じてあるお菓子(ワジック)の作り方を説明した後の発話である。ここでは、*ya*を含む文の内容(お菓子を作るということ)が「話者が作り方の説明を行った」という状況と結び付きをもつ状況としてとらえられていると考えられる。

(25) *ya=pina=wajék?*

CONS=make=rice cake

「ワジック(お菓子の一種)を作るのですか?」 [wajik 013]

(26)は聞き手の家の前に積み上がっている材木を見ての発話である。この文の内容も「材木が積んである」という現在の状況と結びつきを持つ状況であると解釈することができる。

(26) *dèta... ya=tu=pina=apa?*

This... CONS=1PL.AFFIX=make=what

「これ(この材木)...何を作るのですか?」

Sumarsono (1986)は、*ya*の例文として(25)(26)に類する例を挙げ、*ya*は未来時制を表す接辞であると述べている。しかし、実際のところ、*ya*を含む述部は発話時点以前の状況を表すにも用いられる。(19)は発話時点以前に「彼が来る」という状況が成立していても用いられる。また、(21)-(23)は全体が「過去の出来事」として語られている物語からの引用である。

3 「何らかの関連」がある場合、*ya*の使用がどの程度義務的なのか、また、*ya*が示す「何らかの関連」にはどのようなものがありうるのかについて、さらに調査し考察する必要がある。

よって、*ya*は先行する状況との結びつきを示す接辞で、場合によっては未来の状況も表しうると考える方が適切だろうと思われる。

前項で扱った*ka*は「基準点」における完了を示し、この項で扱った*ya*は「先行する状況」との結びつきを示すため、*ka*も*ya*も場合によっては発話時点との前後関係を示すことになる。しかし、これはそれぞれの一次的機能から結果的に生じる事柄である。既に述べてきたように、この言語では述部内に絶対的テンスの標示は現れず、発話時点と文の表す状況が成立した時点との時間的位置関係は必要に応じてときの副詞によって明示される。

### 1.3 *ma* 願望

*ma*は動的な状況を表す動詞を主要部とする述部にのみ現れる。動詞以外を主要部とする述部や静的な状況を表す動詞を主要部とする述部には現れない。

*ma*は、単文では常に一人称または二人称の代名詞と共起し、依頼や勧誘を表す。

(27) *ma=ku=ènèng=tulóng*

DESIRE=1SG.LOW.AFFIX=ask for=help

「私は助けを求めたいのです。」

(28) *ma=mu=tedu pang' ta.*

DESIRE=2SG.LOW.AFFIX=stay at this

「あなたはここにとどまるとよいですよ。」

(29) *ma=tu=balagan kita*

DESIRE=1PL.AFFIX=walk 1PL.INCL 「歩きましょう。」

また、*ma*は目的を表す接続詞*bau'*の節に現れ、主節の動作主の目的が述部の表す状況の実現であることを表す。(接続詞*bau'*の用法については第8章6で扱う。)

この場合、*ma*が付接する用言の表す動作の動作主体は話し手、聞き手に限定されない。

(30) *ada' rasa iri ina=ta ké' adi=ta.*

exist feeling jeros mother=this with younger sibling=this

*saté' ya=racén Si=Ijo=ta, bau' ma=dapat selaki'.*

want CONS=poison TITLE=Ijo=this can DESIRE=get husband

「母親と妹は嫉妬心を抱き、イジョの夫を手に入れることができるように、イジョに毒を盛りたがったのである。」

このように*ma*は単文では「依頼、勧誘」を表し、従属文中では「目的」を表す。この二つの用法に共通する点として、いずれもある主体の「願望」を表すという点があげられる。単文においては願望の主体は話し手であり、従属文中においては願望の主体は主文の動作主である。

### 1.4 *na* ある状況が成立しないことへの願望

*na*は、前項で扱った*ma*の機能（依頼または勧誘・目的）と主要部の表す状況の否定を組み合わせたような機能を持つ。



*na*は*ma*と同様、動的な状況を表す動詞を主要部とする述部にのみ現れる。動詞以外を主要部とする述部や静的な状況を表す動詞を主要部とする述部には現れない。

*na*は単文では、述部の表す状況を実現させないための聞き手への依頼や勧誘を表す。依頼や勧誘の相手は常に聞き手であるが、述部は二人称の代名詞を含む場合と含まない場合がある。(31)のような文と(32)のような文は同じように用いられる。

- (31) *na datang kóta.*  
 DESIRE.NEG come to here  
 「こちらに来ないでください。」「こちらに来るのはおよしなさい。」

- (32) *na sia=datang kóta.*  
 DESIRE.NEG 2SG.HIGH=come to here  
 「こちらに来ないでください。」「こちらに来るのはおよしなさい。」

また、*na*は、目的を表す接続詞*bau'*の節に現れ、主節の動作主の目的が、述部の表す状況が実現しないことであること(「～しないように」)を表す。(接続詞*bau'*の用法は第8章6で扱う。)

- (33) *sió' tepong=nan léng nya bau' na kakan' léng anak*  
 hide cake=that by 3 can DESIRE.NEG eat by child  
 「彼は、子どもに食べられないようにそのお菓子を隠した。」

- (34) *tódé=Siti=ta berari' mo, ya=bèang' mo gunténg=ta kó' dalam brang.*  
 child=Siti=this run away MM CONS=throw MM scissor=this to inside river

- bau' na to' léng tau sai baèng' ka=samaté ina'.*  
 can DESIRE.NEG know by person who responsible PERF=kill mother  
 「シティは、逃げて行き、誰が母親を殺したのか人に知られないように、川にそのはさみを捨てた。」

このように、*na*は主文では「否定の依頼・勧誘」、従属文中では「否定の目的」を表す。この二つの用法に共通する点は、「述部の主要部が表す動作が実現しないことに対する願望」を表すという点である。

前項で扱った*ma*の場合と同様、単文においては願望の主体は話し手であり、目的を表す副詞節においては願望の主体は主文の動作主である。非現実の状況を表す従属文において、主文の動作主が仮定、願望などのモダルの主体として扱われるケースは、仮定条件を表す*lamén*を含む従属文が感情を表す動詞を述部と共起する場合にも観察されている。この構文については第8章6で扱うが、ここでは例を挙げておく。

- (35) *ketakét nya lamén soai' nya kènanang' peno' pipés.*  
 afraid 3 if wife 3 use many money

[1] 「妻がたくさんお金を使えば彼は怖いだろう。」(仮定の主体は話し手)

[2] 「妻がたくさんお金を使ったのではないかと恐れている。」

(仮定の主体は主文の動作主)

(35)に関しては、上に示した[1][2]の解釈が可能である。*lamén*による仮定の主体は[1]の解釈では話し手であるのに対して、[2]の解釈では先行する文の動作主である。

## 2 否定詞

この言語には、2つの否定詞*nó*と*siong'*がある。これらはいずれも文の述部、または、副詞成分の前に現れる。以下の部分では、それぞれの機能について述べる。

### 2.1 否定詞 *nó*

第4章2.5.3で述べたように、*nó*は述部内でアスペクト辞*ka*または叙法辞 (*si*「対比」、*mo*「起動相、妥当」、*po*「条件」)と共起することがある。以下に共起しうる組み合わせとおおよその意味を示す。

この場合、組み合わせによっては不規則な形が現れる。(その場合を太字で示した。)

また組み合わせによっては複合形が個々の要素の意味から(少なくとも単純には)予測できないような意味を表す場合がある。

<i>nó+ka</i>	<b><i>nongka</i></b>	「過去」の否定、または状態の否定
<i>nó+ si</i>	<i>nó.si</i>	「非過去」の否定
<i>nó+si+ka</i>	<b><i>nó.soka</i></b> <sup>4</sup>	<i>nongka</i> の表す状況の強調
<i>nó+mo</i>	<i>nó.mo</i>	かつて成立していた状況の否定「もはや～しない」
<i>nó+mo+ka</i>	<b><i>nó.mongka</i></b>	かつて成立していた状況の否定「もはや～しなかった」
<i>nó+po</i>	<i>nó.po</i>	未然「まだ～しない」
<i>nó+po+ka</i>	<i>nó.poka</i>	未然「まだ～していない」

以下の部分では*nó*の単独での機能、および、上記の個々の複合形の機能について例を挙げながら示す。

#### 2.1.1 *nó* が単独で用いられる場合

ここでは否定詞*nó*がアスペクト辞*ka*や叙法辞と共起しない場合について述べる。*nó*が単独で用いられるのは、何らかの点で特殊な場合であるが、現時点ではその条件がはっきりしていない。ここでは物語や会話の中では*nó*が単独で用いられている例を抜き出し、それらを意味的な基準からおおまかに分類するにとどめる。

物語や会話中、*nó*が単独で用いられているのは主に次のような場合である。

- (A) 認知、許可を表す動詞が述部の主要部である場合
- (B) 文全体が仮定を表す場合
- (C) 文全体が実際に成立しているのとは異なる状況を表す場合
- (D) モダルを表す副詞が現れる場合。

*nó*は(A)-(C)の環境においては述部内に、(D)の環境においては副詞成分、または述部内に

4 第4章の2.5.3(註24)に示したように、テキストでは、規則的な形*nó.sika*も確認されている。

現れる。それぞれについて以下に述べる。

(A) 認知、許可を表す動詞が述部の主要部である場合

(36)(37)は認知、許可を表す動詞の否定に*nó*が用いられている例である。

(36) *a, nó ku=sadu' kau, siong' kau ka=samaté*  
oh NEG 1SG.LOW.AFFIX=trust 2SG.LOW NEG 2sg PERF=kill

「ああ、私はお前を信じることができない。殺したのはお前ではないな。」 [UC 026]

(37)

(a) *kira-kira umér sia pida mo tó', pén?*  
about age 2SG.HIGH. how.many MM now grand.parent

「年はだいたいいくつくらいなの、今、おばあちゃん？」 [PA130]

(b) *nó ku=to'*  
NEG 1SG.LOW.AFFIX=know

「わからない。」 [PA131]

(38)は許可を表す動詞の否定に*nó*が用いられている例である。

(38) *nó bèang' ato mé lók?*  
NEG allow or which way

「(昔、恋人と二人きりで出かけられなかったことに関して)許してもらえなかったの、それともどうい感じ？」 [PA062]

(B) 文全体が仮定を表す場合

(39)-(41)は仮定を表す文に*nó*が現れている例である。

(39)では二箇所*nó*が現れている。仮定を表しているのは二つ目の*nó*を含む節である。(一つ目の*nó*はモダルを表す動詞*roa*と共起しており、以下の(D)のタイプに分類できる。)

(39) *ma mo panéng' berma, nó ku=roa manéng',*  
DESIRE MM take.shower.with together not 1SG.LOW.AFFIX=want bathe

*nó berma ké=nya léng'.*  
NEG together with=3 word

「一緒に水浴びをさせて下さい。彼と一緒になければ私は水浴びをしません。」(と彼女は言った。) [LK189]

(40) *ampa datu=ta é, engka itóng' permisi*  
unexpectedly headman=this you.know NEG.PERF pay attention to ask for permission

*lakó' raja=Samawa', raja=dunóng' raja... apa singén...*  
to king=Sumbawa king=before king... what name?

*Kalibela lamén nó ku=sala' dèan né.*  
Kalibela if NEG 1SG.LOW.AFFIX=mistaken that you know

「意外なことに、將軍はスンバワの王、昔の王---名前は何だったろう...私が間違っていなければ、カリベラ(という名前)だったが---に許しを求めることまで考えていなかった。」 [DPG013]

- (41) *lamén balé=kita=ana nana é,*  
if house=1PL.INCL=over.there over.there you.know
- ta mo tu=laló kó' brang, apa nan pasti*  
this MM 1PL.AFFIX=go to river because that surely
- tu=ola' balé=nan, jarang ada' sumér apa*  
1PL.AFFIX=pass house=that rarely exist well anything
- rua brang tu=turés,*  
I.think river 1PL.AFFIX=often.go.somewhere

*lamén nó brang=nan, brang Peria=nan.*

if NEG river=that river Peria=that

「私たちの家はむこうにあったから、これは、川に行くときは、必ずその家を通った。昔はめったに井戸はなかったから、私たちはしばしば川にいった。その川でなかったら、プリア川にね。」 [PA048]

(C) 文全体が実際に成立している状況とは異なる状況を表す場合

(42)(43)は実際に成立している事柄と異なる内容について述べている文である。

- (42) *é nó mu=bola léng datu=Samawa=ta*  
you.know NEG 2SG.LOW.AFFIX=tell.a.lie word headman=Sumbawa=this
- nó mu=bola apa peno' mo kerajaan*  
NEG 2SG.LOW.AFFIX=tell.a.lie because many MM kingdom
- mu=anong kau mu=jaja néng<sup>5</sup> kau,*  
2SG.LOW.AFFIX=do.that 2SG.LOW 2SG.LOW.AFFIX=take.over by 2SG.LOW

「友好関係を結びに来た」と言う侵略者に対して) スンバワの將軍は言った。「ええい、嘘をつけ (lit.嘘をつかない)。たくさんの王国をおまえたちは征服したじゃないか。」 (実際には聞き手は嘘をついている。) [DPG019]

- (43) *mé lók nó kajulén=serang rua<sup>6</sup>,*  
which way NEG 1sg.nob=attack I.think
- ba' nya saté' ya=jaja tana=Samawa=ta*  
INTERJ 3 want CONS=take.over land=Sumbawa=this

「(主人公の將軍が、王に勝手に兵を出したことを責められたため弁明して) どうして

5 ここでは他動的動作の動作主を示す前置詞 *léng* が *néng* という形で現れている。 *léng* と *néng* の違いは方言による差であると考えられる。

6 *rua* は本来「ようす、外見」を表す名詞であるが、このように発話中に挿入されて、聞き手への敬意を表すことがある。

私は戦わないでいられましたでしょう。彼らはスンバワの地を占領しようとしていたのです。」(彼は実際は戦った。)[DPG037]

## (D) モダルを表す要素が現れている場合

(44)(45)は、*nó*がモダルを表す要素(*bau'*, *roa*)の前に現れている例である<sup>7</sup>。

(44) *nó* *bau'* *datang* *kóta* *nya*.  
NEG can come to here 3  
「彼はここに来ることができない。」

(45) *nó* *roa* *datang* *kóta* *nya*.  
NEG accept come to here 3  
「かれはここに来ることをよしとしない。」

*nó*が単独で用いられるのは、主にこれまで述べてきた(A)-(D)の場合である。これらの条件を一般化すると、文中に描かれている状況の全体あるいは一部に関して、話者がその状況が現実として述べているわけではない、という点が挙げられる。(B)(C)に関しては、現実として述べられているわけではないのは、否定の部分も含め、文全体が表す命題である。(B)に関しては、話者は、文全体が表す状況を現実ではなく仮定として述べている。(C)に関しては、話者は文全体が表す状況を現実と反するものとして述べている。一方、(A)(D)に関しては、現実として述べられているわけではないのは、文の一部分((A)の場合は認知、許可の内容、(D)の場合はモダルを表す要素の内容)である。

ただし、物語、会話などに確認されている「単独の*nó*」の中には、上のケースにあてはまらないものも観察されており、条件についてはさらに検討する必要がある。

以下にそのような例を付す。

(46) *serèa'* *endèng'* *balé* *né*.  
all beside house you.know  
*sai* *ya=tengan'* *bléng-bléng*, *ada'* *lampu* *tu* *n=dalam* *blék* *né*  
who CONS=brave say exist light 1PL.AFFIX at=inside tin you.know

*lók* *nó* *barua* *dèan*  
NOM NEG have.good.manners that

「(昔の日本兵の柄の悪さに触れて)、近所全体見ても、口をきく勇気のあるものはいなかったよ。ランプを缶の中に入れて(暗くして)いたね。あの人たちの柄の悪いことと云ったら。」[PA 145]

(47) *nèmak* *mo* *tentara=Portugés=ta* *nan.lók.na*  
shoot mm army=Portuguese=this such is the case  
*nèmak* *nèmak* *tapi* *karna* *kehèbatan* *datu=ta*

7 第5章の7で述べたように、*roa*は副詞成分として現れる。また、*bau'*は副詞成分としても複文の主文の述部の主要部押しても現れうる。

6.2.1.1 *nó* が単独で用いられる場合

shoot shoot but because power headman=this

*peluru serèa' tentara=Portugés=ta meléncéng,*

bullet all army=Portuguese=this miss

*nó tepat sasaran.*

NEG hit target

「ポルトガル軍は撃ってきた。撃って撃って撃って、でも、(スンバワの)将軍の魔力がすごかったため、ポルトガル軍の弾丸はみな外れ、的にあたらなかった。」  
[DPG025]

(48) *laló=bongka', kuda' nó mu=bongka' lóto baè, léng'*  
go=cook rice why NEG 2SG.LOW.AFFIX=cookrice rice only word

*kuda' bua' mu=bongka' las besolar ké' lóto*  
why reason 2SG.LOW.AFFIX=cook rice unpolished.rice be.mixed and rice

「お米を炊くのに、どうしてお米だけを炊かないで、どうして初つきの米を白米と一緒に炊くんだい? (聞き手は、もみつきのお米と白米と一緒に炊いた。)[LK 094]

2.1.2 *nongka* (否定詞 *nó* + 完了のアスペクト辞 *ka*)

否定詞 *nó* と完了のアスペクト辞 *ka* が述部内で共起する場合は、*nongka* という形が形成される<sup>8</sup>。

*nongka* は、述部内に現れる場合と、副詞成分内に現れる場合がある。

まず、*nongka* が述部内に現れている例を示す。

述部の主要部が静的な状況を表す場合、*nongka* は発話時点においてその状況が成立していることを否定する。

(49) *tau=nan nongka tau=Samawa'.*  
person=that NEG.PERF person=Sumbawa

「その人はスンバワ人ではない。」

(50) *tau=nan nongka pang' Samawa'.*  
person=that NEG.PERF at Sumbawa

「その人はスンバワにはいない。」

(51) *tau=nan nongka kalés Samawa'.*  
person=that NEG.PERF from Sumbawa

「その人はスンバワ出身ではない。」

(52) *nongka panas kawa=ta.*

8 *nongka* の弱化した形として *engka* という形も存在し、この二つの形 *nongka* と *engka* は同様の統語的、意味的機能を持つ。以下の記述および例文では *nongka* を代表形として扱うが、すべての例文において *nongka* と *engka* は意味の変化を伴わず置き換え可能である。

NEG.PERF hot coffee=this  
「このコーヒーは熱くない。」

(53) *nongka panas anó=ta.*  
NEG.PERF hot day=this 「今日は暑くない。」

(54) *balé=kaji nongka rango'.*  
house=1SG.HIGH NEG.PERF big  
「私の家は大きくない。」

一方、述部の主要部が動的な状況を表す動詞である場合、*nongka*を含む述部は、主要部の表す状況が過去の特定の時点において成立しなかったことを表す。

(55) *nongka ku=ketawa'.*  
NEG.PERF 1SG.LOW.AFFIX=laugh  
「私は笑わなかった。」

(56) *nongka datang kó' balé=kaji nya sapèrap.*  
NEG.PERF come to house=1SG.HIGH. 3 yesterday  
「彼は昨日私の家には来なかった。」

次に*nongka*が副詞成分内に現れている例を示す。*nongka*が述部内に現れている場合と同様、この場合も、*nongka*は(57)(58)のように静的な状況の否定、または(59)(60)のように過去の動的な状況の否定に用いられる。

(57) *nongka jarang nya datang kóta.*  
NEG rarely 3 come to here  
「彼はめったにこないわけではない。<sup>9</sup>」

(58) *nongka pang' Samawa' tedu nya.*  
NEG.PERF at Sumbawa stay 3  
「彼はスンバワに滞在しているわけではない。」

(59) *nongka anó-Ahad datang kóta nya.*  
NEG.PERF Sunday come to here 3  
「彼がここに来たのは日曜日ではなかった。」

(60) *nongka mèsà-mèsà' nya datang kóta.*  
NEG.PERF alone 3 come to here  
「彼がここに来たのは一人でではなかった。」

*nongka*はこの位置においてはいわゆる部分否定を示す。たとえば、(57)は副詞成分以外の

9 この場合、述部が表す「来る」という状況は動的であるが、副詞成分を含む文全体が表す「彼が来る頻度が低い」という状況は一種の習慣であり静的な状況であると考えられる。

部分が表す内容（彼が何らかの形でここに来ること）を前提として認め、その上で、その事柄と副詞成文が表す状況との結びつき（彼がくる頻度が低いこと）を否定している。

以上のことから、*nongka*は、(i)現在存在する事物の静的な属性についての否定、および、(ii)過去の動的な状況の否定に用いられることがわかる。

2.1の冒頭で述べたように、*nongka*は形態的には否定詞*nó*と完了のアスペクト辞*ka*の複合形であると考えられるが、上記のような*nongka*の意味は個々の構成要素の意味からは予測することができない。1で示したような*ka*の「完了」の意味は、*nongka*に（少なくとも直接的な形では）反映されていない。

### 2.1.3 *nó.soka* (否定詞 *nó* + 完了のアスペクト辞 *ka* + 叙法辞 *si*)

否定語*nó.soka*は、前項(2.1.2)で扱った*nongka*とほぼ同じ機能を持つ。まず、前項の*nongka*の例文に対応する*nó.soka*の例を挙げる。いずれの場合も命題にかかわるような意味の変化を伴うことなく、*nongka*と*nó.soka*の置き換えが可能である。

(61)(62)は、発話時点における静的な状況が*nó.soka*によって否定されている例である。(それぞれ前項*nongka*の例文(49)(52)に対応する。

(61) *tau=nan nó.soka tau=Samawa'.*  
 person=that NEG.MM.PERF person=Sumbawa  
 「その人はスンバワ人ではない。」

(62) *nó.soka panas kawa=ta.*  
 NEG.MM.PERF hot coffee=this  
 「このコーヒーは熱くない。」

(63)(64)は、過去の状況の否定の例である。(それぞれ前項*nongka*の例文(55)(56)に対応する。)

(63) *nó.soka ku=ketawa'.*  
 NEG.MM.PERF 1SG.LOW.AFFIX=laugh  
 「私は笑わなかった。」

(64) *nó.soka datang kó' bale=kaji nya sapèrap.*  
 NEG.MM.PERF come to house=1SG.HIGH 3 yesterday  
 「彼は昨日私の家には来なかった。」

(65)-(68)は*nó.soka*が副詞成分の前に現れている例である。この場合も*nó.soka*は静的な状況の否定、または、過去の特定の状況の否定に用いられる。(それぞれ前項*nongka*の例文(57)-(60)に対応する。)

(65) *nó.soka jarang nya datang kóta.*  
 NEG.MM.PERF rarely 3 come to.here  
 「彼はめったにこないわけではない。」

(66) *nó.soka pang' Samawa' tedu nya.*



NEG.MM.PERF at Sumbawa stay 3  
 「彼はスンバワに滞在しているわけではない。」

(67) *nó.soka* *anó-Ahad nya datang kóta.*  
 NEG.MM.PERF Sunday 3 come to.here  
 「彼がここに来たのは日曜日ではなかった。」

(68) *nó.soka* *mèsa-mèsa' nya datang kóta.*  
 NEG.MM.PERF alone 3 come to.here  
 「彼がここに来たのは一人でではなかった。」

*nó.soka*の文と*nongka*の文の違いは、話者が当該の命題を提示する際の述べ方にかかわる違いである。実際の発話例を見ると、*nó.soka*の文は次のような場面で用いられることが多い。

- [1] 対比を表す発話
- [2] いわゆるYes-No疑問文やそれに対する答えとしての発話
- [3] 一般的通念や、先行する状況から想定される事柄と反する内容を表す発話

以下に例を示す。(69)は対応するインドネシア語の文を話者がスンバワ語に訳したものであるが、それ以外はすべて会話における自発的な発話である。

- [1] 対比を表す発話

(69) *tau=ta tau=Samawa', tapi tau=nan nó.soka tau=Samawa'.*  
 person=this person=Sumbawa but person=that NEG.MM.PERF person=Sumbawa  
 「この人はスンバワ人だが、その人はスンバワ人ではない。」

(70) *kedua tau dèsa=ta ka=bawa léng Jepang,*  
 two people village=this PERF=bring by Japanese  
*tapi nó.soka terés bawa kó' dèsa.*  
 but NEG.MM.PERF then bring to village

「(日本軍の占領中)この村の二人の人(女性)が日本人に連れて行かれた。でも、続けて(戦後)日本に連れて行ってはもらえなかった。」[PA172]

- [2] いわゆるYes-No疑問文やそれに対する答えとしての発話

(71) (a) *nó.soka gentomas ké'?*  
 NEG.MM.PERF noisy INTERR

(b) *nó.soka*  
 NEG.MM.PERF

(a) 「うるさくない?」 (b) 「うるさくないよ。」

(72)

- (a) *kelas=telu, ka mo sia=dadara?*  
 class=three PERF MM 2SG.HIGH=young.(of.woman)
- (b) ***nó.soka*** *aku. aku lè' ku=rèa' aku na*  
 NEG.PERF 1SG.LOW 1SG.LOW long 1SG.LOW.AFFIX=big 1SG.LOW you.see

(a) 「三年生では、おばあちゃんはもう娘になっていたの。」

(b) 「なっていなかったよ、私は。私は大きくなるのが遅かったから。」 [PA013,014]

[3] 一般的通念や、先行する状況から想定される事柄、または、聞き手の想定と反する内容を表す発話

- (73) *ya=perasa' ina' nó.soka kuda-kuda'*  
 CONS=feel mother NEG.PERF why
- walaupón ka mo bakat né.*  
 although PERF MM be injured you know

「(刺されて) 傷を負ったにもかかわらず、母親は何ともなかった。」  
 [kubér béló 031]

(74)

- (a) *mé rèa' umér paman=Jamhuri, bilén sia léng papén?*  
 which big year uncle=Jamhuri leave 2SG.HIGH. by grand.parent
- (b) *o rango' mo.. to' mo tegas, ajar léng ké' uma-tana*  
 oh big MM know MM meaning because because with land
- nanta ya=bilén tu né,*  
 oh CONS=leave 1PL.AFFIX you.know
- dadi nó.soka tu=kesakét apa misal-misal yatusatelas*  
 then NEG.MM.PERF 1PL.AFFIX=suffur anything for.example cons=1PL.AFFIX=raise
- nya né.*  
 3 you.know

((a)と(b)は孫と祖母の会話である。祖母は、末子(ジャムフリおじさん)が成人する前に、夫(aでいうおじいちゃん)と死別している。)

(a) 「ジャムフリおじさんが何歳のとき、おばあちゃんはおじいちゃんにおいていかれたの？(おじいちゃんと死に別れたの?)」 [PA106]

(b) 「あ、(ジャムフリおじさんは)もう大きかったよ。物がわかっていた。私たちには残された土地があったからね、(おじいちゃんが亡くなくても)彼を育てるのに困るようなことはなかったよ。」 [PA107]

この項の最初に述べたように、*nó.soka*は、前項で扱った否定詞 *nongka* の構成要素(否定詞 *nó* + 完了のアスペクト辞 *ka*) に叙法辞 *si* (対比) が加わったものである。上記の *nó.soka* の

用法は、叙法辞*si*の機能(対比)の反映として説明できる。

[1]-[3]に関して、対比の対象はそれぞれ次のように考えられる。

[1]の場合は、対比の対象は、先行する文によって明示されている。

[2]の場合は次のように言える。Yes-No疑問文への返答は、二つの選択肢から、片方の可能性を排除し、一方の可能性を選び取る行為であり、本質的に二つの命題の対比を含むといえる。

[3]の場合は、一般的通念や、先行する談話などから想定される事柄と、*nó.soka*の文の内容との対比が行われているものと考えられる。

叙法辞*si*が示す「対比」については、第7章6でより詳しく扱う

#### 2.1.4 *nó.si* (否定詞 *nó* + 叙法辞 *si*) の機能

*nó.si*は、否定詞*nó*と叙法辞*si*の複合形である。

*nó.si*は、述部内または副詞成分内に現れ、未来の状況を述べる場合、または、時系列上の時点特定せずに一般的な状況を述べる場合に用いられる。

まず、*nó.si*が述部の前に現れる場合について述べる。

述部の主要部が静的な状況を表す場合、*nó*を含む述部は未来の状況の否定を表す。

(75)-(77)に例を示す。(2.1.2, 2.1.3で述べたように、現在の状況の否定には*nongka*または*nó.soka*が用いられる。ここでは(75)-(77)にそれぞれ対応する*nongka*の例を(75)'-(77)'として挙げる。

(75) *nó.si pang' Samawa' tedu nya.*

NEG.MM at Sumbawa stay 3

「彼がとどまるのはスンバワではないだろう。」

(75)' *nongka pang' Samawa' tedu nya.*

NEG.PERF at Sumbawa stay 3

「彼がいるのはスンバワではない。」

(76) *nó.si panas nawar.*

NEG.MM hot tomorrow

「明日は暑くないだろう。」

(76)' *nongka panas anó=ta.*

NEG.PERF hot day=this

「今日は暑くない。」

(77) *nó.si rango' balé=kaji.*

NEG.MM big house=1SG.HIGH.

「(建築予定の)私の家は大きくはならないでしょう。」

(77)' *nongka rango' balé=kaji.*

NEG.PERF big house=1SG.HIGH.

「私の家は大きくない。」

述部が動的な状況を表す場合、*nó.si*は未来の状況、または一般的な状況の否定を行う。(78)は、*nó.si*が動的な状況を表す動詞を主要部とする述部に現れている例である。

- (78) *nó.si datang nya kó' balé=kaji.*  
 NEG.MM come 3 to house=1SG.HIGH.  
 「(未来の特定のときに)彼は私の家に来ないだろう。」  
 「(一般に)彼は私の家に来ない。」

2.1.2, 2.1.3で述べたように、過去の特定の状況の否定には*nongka*または*nó.soka*が用いられる。(78)に対応する過去の特定の状況の否定を表す例として、*nongka*の文(79)(=56)を挙げる。

- (79)(=56) *nongka datang nya kó' balé=kaji sapèrap.*  
 NEG.PERF come 3 to house=1SG.HIGH yesterday  
 「彼は昨日私の家には来なかった。」

次に*nó.si*が副詞成分内に現れている例を示す。*nó.si*はこの場合も、未来の事態、もしくは一般的な事態についての否定を表す場合に用いられる。(80)(81)に例を示す。(この場合も、過去の特定の状況の否定には*nongka*または*nó.soka*が用いられる。(80)(81)に対応する*nongka*の例として、(80)'(=59), (81)'(=60))を挙げる。

- (80) *nó.si anó=Ahad nya datang kóta.*  
 NEG day=Sunday 3 come to.here  
 「(一般に、または未来の特定の場に関して)彼がここに来るのは日曜日ではない。」

- (80)'(=59) *nongka anó=Ahad nya datang kóta nya.*  
 NEG.PERF Sunday 3 come to here 3  
 「彼がここに来たのは日曜日ではなかった。」

- (81) *nó.si mèsà-mèsà' nya datang kóta.*  
 NEG alone 3 come to.here  
 「(一般に、または未来の特定のときに関して)彼は一人ではここに来ない。」

- (81)'(=60) *nongka mèsà-mèsà' datang kóta nya.*  
 NEG.PERF alone come to here 3  
 「彼がここに来たのは一人ではなかった。」

*nó.si*は形態的には否定詞*nó*と対比を示す叙法辞*si*からなるが、その意味は個々の構成要素からは予測することができない。前項で触れたように、叙法辞*si*は対比を表す要素であるが、*nó.si*は積極的に対比の意味を持たない文にも用いられる。よって、その意味は叙法辞*si*の機能と(少なくとも直接的には)結びつけることができない。この点については第7章の5.2でさらに触れる。

#### 2.1.5 *nó.po* と *nó.poka* (未然)

*nó.po*と*nó.poka*は、いずれも、動詞を主要部とする述部に先行し、日本語の「まだ しない」に相当する状況、つまり、将来実現が期待される状況が、基準となる時点(通常は発話時点)においてまだ実現していないことを表す。

- (82) *tau=nan nó.po datang.*

person=that not.yet come

「その人はまだ来ない。」

(83) *tau=nan nó.poka datang.*

person=that not.yet come 「その人はまだ来ていない。」

*nó.po*の文と*nó.poka*の文に顕著な意味の違いはなく、いずれも「未然」を表す。ただし、この二つの形の間には、その「未然」である状態を話者がどのようにとらえているかに関する違いがあるようである。*nó.po*の文は、「既に期待される状況が実現するための条件はすべて整っているにもかかわらず、その状況が実現していない」と話者が考えている場合に用いられ、*nó.poka*の文は、「未然」である状態に関する話者の判断に関しては何も表していないとのことである<sup>10</sup>。

この二つの形に関してテキストでの使用例を見ると*nó.po*に比べて*nó.poka*の使用例が圧倒的に多い。*nó.poka*の使用例が約10例あるのに対して、*nó.po*の使用例は1例のみである。以下に確認されているうちで*nó.po*が現れている唯一の例(84)と*nó.poka*が使用されている例のうち三例(85)-(87)を挙げる。

(84) *sedang lè' malóm tódé' anak=ta, kan, masi tódé',*  
although long as you know child child=this isn't it still child

*nó.po to' berpikér, nó.po to=apa. masi si bléng*  
not yet know think not yet know=anything still MM say.

(先行する部分で、おなかをすかせてご飯をせがむ子どもに対して母親は「今米とごみとをよりわけているから」と説明した)

「(ご飯が炊けるには)まだ時間がかかるというのに、ご存知のとおり子どもは幼かったので、まだ子どもだったので、**まだ**何も知らず、**まだ**思慮がなかったので、またご飯をせがんだ。」[BL021]

(85) *tapi saat ya=ulèng léng=ina=nan léng=mentua=ana né*  
but when CONS=turn.over by=mother=that by=parent in law=over there you know

*pada saat, nó.poka masak.*  
at period not.yet cooked

「しかし、母親が、姑がお釜をあけたときは、**まだ**ご飯が炊けていなかった。」[LK088]

(86) *é.. kau=ta ba' nó.poka bau' tengka dèta é*  
you.know 2SG.LOW=this INTERJ not.yet can climb this you.know

10 このような*nó.po*と*nó.poka*の意味的違いは、日本語の(a)「まだ～しない」と(b)「まだ～していない」に見られる意味的違いにほぼ相当する。

(a) 彼はまだ来ない。(既に来るべき条件は整っているにもかかわらず来ていないというニュアンスが感じられる。)

(b) 彼はまだ来ていない。(特に上記のようなニュアンスは感じられない。)

*siong'*      *ka=nyaman*      *tu=entèk=punti'*  
 NEG          PERF=easy      1PL.AFFIX=go.up=banana

*kelét*      *dèta*      *é*          *tari*      *kau=nan*      *né*          *léng*      *ndé=boté'*  
 slippery    this      you.know    wait      2SG.LOW=that    you.know    word      uncle=monkey

「『ああ、あんた、(私は)まだ登っていないんですよ。バナナの木に登るのは簡単じゃないんですよ、これ(バナナの木)は滑りやすいんですよ。あんたは待っていてください』とお猿のおじさんは言った。」 [kakura 031]

(87) *ya=ku=bèang'*                      *nènè,*      *tó'*      *mè=ta*      ***nó.poka***      *masak.*  
 cons=1SG.LOW.AFFIX=give    2-3PL    now    rice=this      not yet      cooked

「(あとで)あんたたちにご飯をあげるつもりだよ。今はご飯がまだ炊けていないから。」 [BL046]

2.1の冒頭で述べたように、*nó.po*は形態的には否定詞*nó*と必要条件を示す叙法辞*po*から、と*nó.poka*はそれに加えて完了のAspect辞*ka*から成っていると考えられるが、上に示した複合形の意味はいずれも個々の構成要素の意味から予測することができない。( *ka*についてはこの章の1.1で扱った。 *po*については第7章の4で扱う。 )

#### 2.1.6 *nó.mo* と *nó.mongka* 「もう～しない」

*nó.mo*と*nó.mongka*は、あるとき成立していた状況が、ある時点(時点A)を境に成立しなくなったということを表す。

*nó.mo*と*nó.mongka*は、常に動詞を主要部とする述部に先行する。(88)(89)に例を示す。

(88) ***nó.mo***      *datang*      *kóta*      *nya.*  
*nó.mo*      come      to.here      3  
 「彼はもうここには来ていない。」  
 「彼はもうここには来ない。」

(89) ***nó.mongka***                      *datang*      *kóta*      *nya.*  
*nó.mongka*                      come      to.here      3  
 「彼はもうここには来ていない。」

*nó.mo*と*nó.mongka*の違いは、時点Aの時系列上の位置に関する制限の有無である。*nó.mo*が時点Aの位置について特に指定しないのに対して、*nó.mongka*は時点Aが時系列上において基準である時点(通常は発話時点)以前の特定の一点に属することを示す。

たとえば(88)と(89)はいずれも彼が「ここに来ている」状態から「ここに来ない」という状態への変化を表している。二つの文で異なっているのは、(88)はその変化が起こった時点がいつであろうと用いられるが、(89)はその変化が基準となる時点(通常は発話時点)以前に起こった場合にのみ用いられるという点である。

(おおまかにいうと、*nó.mo*は日本語の「もう～しない」と「もう～していない」の両方に

相当する内容を表すのに対して、*nó.mongka*は「もう～していない」に相当する内容のみを表す。）

以下の部分では*nó.mo*、*nó.mongka*を含む物語や会話からの例を挙げ、それぞれの例における時点Aの位置づけを観察する。

(90)-(92)は*nó.mo*の例である。

(90)は物語からの引用である。*nó.mo*の文は、登場人物の発話の中に現れている。

ここで、話し手は聞き手への勧誘を行っており、この文においては、時点Aは発話時点以降の時点に位置づけることができる。

- (90) *karéng bléng diri, lalu=Sengkilang=ta*  
and.then say 3.HIGH title=Sangkilang=this
- ya ba' nó.mo ninan, nó.mo bao Bangka=ta,*  
yes INTERJ not.anymore there not.anymore on ship=this
- ètè' tipar=Umpu selèbar pang' bao lét=ana*  
take carpet=Umpu spread at on sea=over there
- ya=ajak juragan Bangka=nan tokal pang' bao lét*  
CONS=invite owner boat=that sit at on sea
- pang' bao tipar=Umpu.*  
at on carpet=Umpu

「(ラル・サンキランが連れと乗ろうとした船が沈んだ。)それで、そのお方、ラル・サンキランは言った。『では、そこはやめましょう。この船の上はやめましょう。』(そして)ウンプという名前の敷物を取り出し、海の上に広げ、船の持ち主に海の上に、ウンプと呼ばれる敷物の上に座るように誘った。」[SS073]

(91)も物語からの引用で、登場人物の発話を表している。ここでは話し手は過去の自分の行動について述べている。よって、ここでは時点Aを発話時点以前の時点に位置づけることができる。

- (91) *nó.mo ku=roa tedu pang' dèsa.*  
not anymore 1SG.LOW.AFFIX=want stay at native.land
- dadi ké' serèa' dengan-dengan ku*  
then with all company 1SG.LOW.AFFIX
- ta nya, bolang lét diri ku.*  
this 3 cast.away sea oneself 1SG.LOW.AFFIX

「私はもう故郷にいたくなかったので、多くの連れと一緒にこのように身を海に投じたのです。」[SS 077]

(92)は会話からの引用で、話者は料理の作り方について述べている。ここでは*nó.mo*は一般的な事柄を示す。ここでは一般的な状況が述べられており、時点Aの位置は時系列上の特定の時点に限定されているわけではない。

(92) *ao'*, *ka mo gat né,* *kira-kira sementa' na*  
 yes PERF MM melt you.know roughly like.this you.see

*nó.mo roa teri' né,*  
 not.anymore like fall.down you.know

*teri si tapi lè' lè' teri' gula.*  
 fall.down MM but long long fall.down sugar

(溶かした砂糖に蒸したお米を入れるタイミングについて述べている。)

「うん。(砂糖が)熱でどろっとしたらだね。(手まねしながら)こんな感じでね、もう(へらなどからたらしても)落ちそうもなくなって、落ちるんだけど落ちるのに時間がかかるようになったら、砂糖がね。(そうしたらお米を入れる)」

[wajik 012]

以上のことから、*nó.mo*の文は、時点Aの時系列上の点が発話時点以前である場合も、以降である場合も、あるいは特に限定されていない場合も用いられることがわかる。

次に*nó.mongka*の例を(93)(94)に示す。(93)(94)は会話からの引用である。いずれの場合も*nó.mongka*の文は過去のある時点における変化を表している。

(93)

(a) *tó' nó.monda' sia=pina dèan pén*  
 now not.exist.anymore 2SG.HIGH=make that grand.parent

「もうそれ(クチブット)は作ってないの、おばあちゃん。」 [keciput 024]

(b) *nó.mongka anong ampó' né, tu=kengumén bilang ampó' dèan.*  
 not.anymore that again you.know 1PL.AFFIX=exhausted count again that

「もう作ってないよ、(小さいお菓子なので)数えるのが大変だから、あれは。」

[keciput 025]

(94)

(a) *nó.monka bau' lawong-lawong.*  
 not anymore can speak

「(ある年配の女性に関して)もうしゃべったりはできないんだよね?」 [PA164]

(b) *nó.monka, loka' mo.*  
 not anymore old MM

「もうできないね、もう年を取っているよ。」 [PA165]

(93)(94)いずれにおいても*nó.mongka*は、時点Aが発話時点以前であるときに用いられている。

また、上に挙げた*nó.mo*の例(90)-(92)に関して*nó.mo*と*nó.mongka*が置き換え可能かどうかを話者に尋ねたところ、置き換え可能なのは、時点Aが発話時点以前である(91)だけであるとのことであった。



このことから *nó.mongka* は時点Aが発話時点以降である場合、時点Aの位置を時系列上に位置づけることができない場合は用いることができないことがわかる。

2.1の冒頭で述べたように、*nó.mo*の構成要素は否定詞*nó*と起動・当然を示す叙法辞*mo*である。また、*nó.mongka*の構成要素は否定詞*nó*と起動・当然を示す叙法辞*mo*、および完了のアスペクト辞*ka*である。上に示した複合形の意味は、いずれも個々の構成要素の意味からある程度予測することができる。この点については第7章3.1.1で叙法辞*mo*の意味について述べた後に述べる。

## 2.2 否定詞 *siong'*

否定詞*siong'*は、次の位置に現れる。

[1] 動詞以外を主要部とする述部内

[2] 副詞成分内

それぞれの例を以下に示す。

[1] 動詞以外を主要部とする述部内

(95) *siong'*    *tau=Samawa'*    *tau=nan.*  
 NEG        person=Sumbawa    person=that        「その人はスンバワ人ではない。」

(96) *siong'*    *pang'*    *Samawa'*    *tau=nan.*  
 NEG        at        Sumbawa    person=that        「その人はスンバワにはいない。」

(97) *siong'*    *si*        *kalés*    *Samawa'*    *tau=nan.*  
 NEG        MM        from        Sumbawa    person=that  
             「その人はスンバワ出身ではない。」

(98) *siong'*    *si*        *anó-Ahad*    *pèsta=nan*  
 NEG        MM        Sunday    party=that  
             「パーティは日曜日ではない。」

*siong'*は動詞を主要部とする述部には現れない。これは、動詞が静的な状況を表す場合も、動的な状況を表す場合も同様である。動詞が静的な状況を表す例を(99)に、動的な状況を表す例を(100)に挙げる。

(99) \**siong'*    *manés*    *kawa=nan.*  
 NEG        sweet    coffee=that  
             (期待される意味)「そのコーヒーは甘くない。」

(100) \**siong'*    *datang*    *kóta*        *nya.*  
 NEG        come    to here    3  
             (期待される意味)「彼はここには来ない。」

動詞が述部の主要部である場合は、否定詞*nó*を含む否定複合形*nongka*、*nó.si*などが用いら

れる。*nongka*については2.1.2で、*nó.si*については2.1.4で扱った。

(99)に対応する容認される否定文を(99)'(99)''に挙げる。

(99)' *nongka manés kawa=nan.*  
 NEG.PERF sweet coffee=that  
 「そのコーヒーは甘くない。」

(99)'' *nó.si manés kawa=nan.*  
 NEG.MM sweet coffee=that  
 「そのコーヒーは甘くないだろう。」

また、(100)に対応する容認される否定文を(100)'(100)''に挙げる。

(100)' *nongka datang kóta nya.*  
 NEG.PERF come to here 3  
 「(過去の一時点に)彼はここには来なかった。」

(100)'' *nó.si datang kóta nya.*  
 NEG.MM come to here 3  
 「(未来のある時点に、または一般的に)彼はここには来ない。」

ただし、*siong'*は存在を表す自動詞*ada'*を主要部とする述部内には例外的に現れうる。

(101) *siong' ada' pipés tau=nan.*  
 NEG exist money person=that  
 「その人にはお金がない。」

## [2] 副詞成分内

(102) *siong' pang' Samawa' tedu nya.*  
 NEG at Sumbawa stay 3  
 「彼はスンバワに滞在しているわけではない。」

*siong'*が現れる環境は、*nó*を含むいくつかの形、特に*nongka*、*nó.soka*、*nó.si*が用いられる環境と重なっている。*siong'*とこれらの*nó*を含む形の使い分けについては、現在のところよくわからない。ここでは、物語や会話から*siong'*が用いられている例をいくつか挙げるにとどめる。

(103)-(107)は*siong'*の例である。

(103) *serèa' tau datang, kejulén ka=samaté kejulén ka=samaté*  
 all people come 1SG.NOB PERF=kill 1SG.NOB PERF=kill  
*tapi, ba' mé kuku' mén tutu' kau ka=samaté léng Datu, enda',*  
 but INTERJ which nail if really 2SG.LOW PERF=kill word headman not.exist  
*lamén nan siong' nènè, nya léng Datu=Samawa'.*

6.2.2 否定詞 *siong'*

if that NEG 2-3.PL 3 word headman=Sumbawa

「やってきたものはみな、『私が殺したのです、私が殺したのです』（と言った。）しかし、『本当にお前が殺したのなら、（殺された將軍の金の）付け爪はどこにあるのだ』と王が言ったところ、（爪は）なかった。『それなら（殺したのは）お前たちではないな』とスンバワの王は言った。」 [UC023-024]

(104)

(a) *pang'* *karang=Ponong?*

at villege=Ponong

「(聞き手に対して) ポノン村で(生まれたの)?」 [PA004]

(b) *pang'* *karang=Tenga=ana.* *siong'* *karang=Ponong=tó'*

at villege=the middle=over there NEG villege=Ponong=now

*karang=Tenga'* *tó'* *é*

villege=the middle now you know

「むこうの中の村だよ。今のポノン村ではなくて、今の中の村だよ。」 [PA005]

(105)

(a) *apa adè belajar pang' sekola=dunóng'?*

what NOM learn at school=before

「(Edot) 昔の学校では何を勉強したの?」 [PA015]

(b) *siong'* *cara tó' apa peno' suru' tau pina=kemang*

NEG way now because many order people make=flower

*pina=apa,* *enda', setera-tera=nan-nan baè si.*

make=anything not.exist letters=that only MM

「今のようなやり方ではないよ。今は人に花を作らせたり、何だかんだと作らせたり.....そういうのはなかった。読み書きなんかだけだったよ。」 [PA016]

(106)

(a) *pida tén sia=sekola*

how.many tahun 2SG.HIGH=school

「(Edot) 何年間学校に行っていたの?」 [PA025]

(b) *telu tén tamat, mo, nan jangka. siong' ada' kelas=mpat lima rua*

three year graduate MM that limit NEG exist class=four five I.think

「三年で卒業。それが年限だった。(今のよう)に四年生、五年生はなかった。」

(107) *m.m... aku né*

yes 1SG.LOW you.know

## 6.2.2 否定詞 *siong'*

*ka=ku=sakét*                      *ka=ku=naré*  
 PERF=1SG.LOW.AFFIX=sick    PERF=1SG.LOW.AFFIX=sick.after.childbirth  
  
*aku né, sakét telu tén. siong' ada' susu*  
 1sg.low you.know sick three tahun not exist milk  
  
*siong' ada' ya=t=bèang' tau=dunóng' rua*  
 NEG exist CONS=1PL.AFFIX=give people=before it.seems  
  
*selén' ké' ai-susu-susu ina baè*  
 besides with milk mother only  
  
*ètè' mo léng tau=ana.*  
 take MM by people=over.there

「うん、私はね、病気だったんだよ、産後の肥立ちが悪かったんだよ、三年間病気だった。お乳がなかった。昔は母親のお乳以外人（赤ちゃん）にあげるものはなかったから、人に引き取られたんだよ。」

### 2.3 「否定」についてのまとめ

この言語の「否定」についてこの節で述べてきたことをまとめると以下のようになる。

この言語の否定詞には *nó* と *siong'* の二つがある。 *nó* は完了のアスペクト辞、談話辞とともに複合形を形成する。複合形の表す内容は個々の構成要素から予測できるものであるとは限らない。

否定詞、およびその複合形の使い分けには次のような要因が複合的に関与している。

- [1] 静的な状況を否定するか、動的な状況を否定するか
- [2] その文の表す状況が特定の時点、あるいは時系列上の範囲と結びつけられているかどうか
- [3] 話者がその文の表す状況を、他の状況と対比する形で述べているかどうか
- [4] 述部の主要部が動詞であるかどうか